

院内感染対策の地域連携と各職種の役割 看護師の立場から

藤田 烈[†]第67回国立病院総合医学会
(平成25年11月9日 於金沢)

IRYO Vol. 68 No. 10 (504-507) 2014

要旨

昨年、感染防止対策加算が新設され、感染対策の組織化と施設間連携に関する施設要件が設定された。質の高い感染対策活動を継続するためには、経済的にも健全な環境を整える必要があり、今回の加算新設は、感染対策活動に取り組む各医療施設の大きな支えとなっている。さらに、多くの医療機関が感染防止対策加算を申請したことともない、加算要件の一つである地域ネットワーク整備も急激に進められることとなった。

地域ネットワークの構築は、各施設の感染対策担当者に情報共有の場を提供する貴重な機会となったが、反面、加算届出に対応するため急ごしらえで構築したネットワークが業務に混乱をもたらし、担当者の負担増加につながるケースも散見されている。ネットワークを機能的に発展させていくためには、施設担当者の責任と役割を明瞭にし、業務の整理を行うとともに効果的な支援を施設が行う必要がある。

感染管理活動を専従もしくは専任の立場で担当する看護師は、地域連携ネットワーク活動の中で、事務局としての中心的役割を担う場合が多く、大きな負担と責任を負っている。この種の役割を果たす看護師の将来に向けた課題として、膨大な事務作業で業務が破綻しないよう協力者を募り、施設職員のサポートを積極的に活用すること、感染対策活動の成果を可視化して示し、経営陣の理解と支持を得て、活動時間や費用・権限等を確保することなどが挙げられる。

キーワード 院内感染対策、地域連携、ネットワーク、感染防止対策加算、
感染防止対策地域連携加算

はじめに

昨年、感染防止対策加算が新設され、感染対策の組織化と施設間連携に関する施設要件が設定され

た¹⁾⁻³⁾。2012年7月現在の届出医療機関数は、加算1で956施設(11.1%)、加算2では2360施設(27.4%)、合計で本邦の約4割の病院がいずれかの届け出を行っている⁴⁾。感染対策活動の目的は、院内感染を防

東京大学附属病院臨床研究支援センター 中央管理ユニット生物統計・データ管理部門 †看護師
(平成26年3月19日受付、平成26年6月20日受理)

Regional Cooperation of Hospital Infection Control and the Role of Nurses
Retsu Fujita, Clinical Research Center, The University of Tokyo Hospital
(Received Mar. 19, 2014, Accepted Jun. 20, 2014)

Key Words: nosocomial infection control, regional cooperation, network, interest on infection prevention, interest on regional cooperation of infection prevention